

シンポジウム開催趣旨

九州には豊かな森が広がり、古くから森を資源として利用してきました。しかし、今、多くの森が適切に管理されず、様々な問題が生じています。このシンポジウムでは、現在、九州の森で問題となっている事についての研究を紹介し、皆さんと情報を共有し、そして、森のこれからを考えていきたいと思います。



連絡先:
独立行政法人森林総合研究所
森林植生研究領域内事務局
E-mail: bl_pro_admin@ffpri.affrc.go.jp
Tel/Fax: 029-829-8222
http://www2.affrc.go.jp/labs/bl_pro_1/top.html
* 講演内容は近日中に上記HPで公開いたします

広葉樹林化

検索



公開シンポジウム

九州の森は今・・・

プログラム

10:00 ご挨拶

《講演》

10:05 自然の森も衰える？

田内 裕之(森林総合研究所 森林植生研究領域)

10:30 自然に森は再生する？

伊藤 哲(宮崎大学農学部)

10:55 森が再生できる場所は予測できる？

小田 三保(宮崎県林業技術センター)

11:20 シカは森の再生を妨げる？

野宮 治人(森林総合研究所 九州支所)

11:45 総合質疑

12:00 閉会

日時： 2009年11月21日(土) 10:00～12:00

場所： 宮崎市民プラザ4階ギャラリー
(宮崎県宮崎市橘通西1丁目1番2号)

主催：独立行政法人 森林総合研究所

共催：農林水産省 農林技術会議
九州森林管理局

自然の森も衰える？

－ほったらかしになった今の里山と昔の里山の違い－

田内 裕之

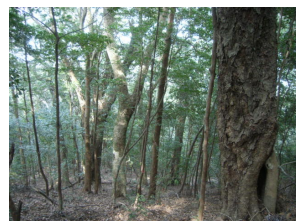
里山とは、農山村の人里近い所にある森で、皆さんが身近に見ている森のことです。その一部はスギやヒノキなどの人工林に変わってしまいましたが、残りの部分のシイ林に代表される天然林は、1960年代まで炭や薪の材料、つまり国民の重要な燃料源となっていました。このような里山は、薪炭林とも呼ばれ、自然の再生能力を使って上手に利用されてきました。薪炭林は20～30年の間隔で定期的に伐採されていたので、伐採後には萌芽能力の高いコジイやアラカシ等が一斉に再生し、私たちは高密度で真っ直ぐな炭焼きに具合の良い木を収穫することができました。しかし、近年は放置されているため、この森の中身も変わりました。風などにより高い木が一斉に倒れて脆弱になってしまった森や、一方では次代を担う別の種類の稚樹が成長して世代交代をし始めた森もあります。これらがどのような違いによって出来るのかを紹介します。

自然に森は再生する？

－人工林伐採後の可能性－

伊藤 哲

日本、特に九州は森林が再生しやすい環境条件に恵まれています。その再生力に期待した伐採があちこちに見られますが、人工林を伐採した後は必ずしも元の自然林の姿に戻るわけではなく、様々な条件が森の再生を妨げる要因になります。例えば、一度、草地や田畑など森林以外の土地の利用を行った場所では、種子などの再生材料が無くなってしまっている場合が多いため、今ある人工林が伐採後に自然の森林に戻るのには容易ではありません。また、自然林を伐採した後に人工林を造った場合も、その人工林の管理が行き届いてないと、再生材料が無くなってしまふことがあります。さらに、伐採時に地表が荒らされるような場合には、再生材料である種子や芽生えを支える土壌が流出してしまい、森の再生が著しく遅れることがあります。このように、様々な要因によって再生が大きく左右される森の動きを紹介します。



森が再生できる場所は予測できる？

－自然再生が可能な場所の探索－

小田 三保

針葉樹林の人工林を混交林や広葉樹林へ転換させる試みが行われています。多くの場合、天然更新（自然による樹木の再生）によって転換することを期待していますが、文献やこれまでの研究成果等から、広葉樹の稚樹が侵入・定着しやすい場所とそうでない場所がある事が解っています。その要因として、周囲に種子源となる広葉樹林があるかどうか、人工林とする前にどのような利用をされてきたか等が挙げられます。ある場所が天然更新可能かどうかを判断するには、その場所での土地の履歴や状態等の調査が必要ですが、山奥での広域の調査は容易ではありません。そこで、有効な手段となるのがGIS（地理情報システム）です。GISは位置情報に様々な情報を付加・解析をし、コンピューター上で表示や検索ができます。宮崎県耳川流域で、様々な情報を付加したGISを使い、天然更新が可能な森を探し出す試みを行いましたので紹介します。

シカは森の再生を妨げる？

－すっかり悪者になってしまった今どきのシカ事情－

野宮 治人

かつては姿を見ることも稀だったシカ（ニホンジカ）ですが、現在では全国的にその数が増えています。九州でも農林業被害を抑制するため個体数管理の努力が続けられていますが、なかなか個体数は減らないようです。人工林を伐採したら、その後、植栽や天然更新によって森を再生するのですが、シカが多く生息する状況下でそれがうまく出来るのでしょうか？私たちの調査では、森林の自然再生に重要な広葉樹の前生稚樹（皆伐前から人工林内に定着していた若木）のうち、シカが好む樹種では剥皮や枯死が起きていることがわかりました。この結果から、森林を伐採すると周辺に生息しているシカが伐採跡地に集中してエサを食べることが推定されました。また、空中写真の判読から、高標高域では森林再生が遅れる傾向も見られました。困難な問題ですが、これからはシカとの共存を考える必要もあります。私たちの取り組んでいる方法を紹介します。

* Memo *